

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 6 月 30 日現在

機関番号：10101

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16H03422

研究課題名(和文) 平安時代漢字字書総合データベースによる研究基盤の確立

研究課題名(英文) The Establishment of the Foundation Study of Hanzi Dictionaries in Early Japan

研究代表者

池田 証壽 (Ikeda, Shoju)

北海道大学・文学研究院・特任教授

研究者番号：20176093

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,700,000円

研究成果の概要(和文)：7万字を超える漢字の処理が可能なUnicodeを用いて、平安時代を代表する漢字字書である『篆隸万象名義』『新撰字鏡』『類聚名義抄』を総合した全文テキストデータベースを構築して、日本古辞書の研究基盤の確立を目指した。このデータベースは「平安時代漢字字書総合データベース」(略称HDIC)と称し、日本語学・中国語学・日中古典学・仏教学の諸学者が協力して、この研究を遂行した。研究の成果は、国内外の学会での発表や学術雑誌・図書の公刊、さらにインターネットでのデータベース公開を行った。これにより、人文学諸分野における言語資料として日本古辞書の活用をはかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

この課題が対象とする日本古字書『篆隸万象名義』『新撰字鏡』『類聚名義抄』は、いずれも貴重な文化財であり、平安時代の写本が伝存することからその言語資料としても価値が高い。しかし、古写本ゆえに判読に困難が多く、これまで全文の翻刻が出版されることはなかった。近時、『説文解字』『広韻』『康熙字典』などの中国の著名辞書はオンライン版が公開されるようになったが、海外での公開が多く、日本国内では例が少ない。『篆隸万象名義』『新撰字鏡』『類聚名義抄』はいずれも日本に伝存する古字書であり、それらを国内研究者が翻刻公開することは、大きな学術的意義と社会的意義を有するものである。

研究成果の概要(英文)：The database named Integrated Database of Hanzi Dictionaries in Early Japan, abbreviated as HDIC, is a Unicode (over 70,000 Chinese characters can be processed) based project, which includes three dictionaries compiled in Heian period: Tenreibanshomeigi, Shinsenjikyo, and Ruijumyogisho. By materializing the full-text database of these dictionaries, the project aims at heading for creating a worldwide platform for the study of the dictionaries in early Japan. In cooperation with scholars of Japanese Linguistics, Chinese Linguistics, and Buddhist Studies, we have accomplished this research gradually. Through the approaches such as presentations on both domestic and international study communities, publications of academic journal and books, moreover, by the release of database through the internet, we have made the research results public positively. Above-mentioned, we are looking forward to the database can be made practical use as a linguistic source in humanities.

研究分野：日本語学

キーワード：篆隸万象名義 新撰字鏡 類聚名義抄 玉篇 切韻 オープンデータ Unicode

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) Unicode の普及・定着と日本古辞書データベース化の現状

Unicode により 7 万を超える漢字が処理可能となり、海外では『説文解字』『広韻』『康熙字典』等、主要な中国辞書の Web 版がオープンアクセスで続々と公開されている。

国内では国立国語研究所「日本語歴史コーパス」が本格的にスタートし、国文学研究資料館「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」も進行しているが、『篆隸万象名義』(9 世紀初、弘法大師空海撰)、『新撰字鏡』(10 世紀初、昌住撰)、『類聚名義抄』(図書寮本: 12 世紀初、法相宗僧侶の撰述。観智院本: 12 世紀後半、真言宗僧侶の撰述)をはじめとする日本の古辞書について具体的な計画は示されていない。

(2) 平安時代漢字字書総合データベースの構築と日本語歴史コーパスとの連携

部首分類体の辞書を「漢字字書」または「字書」と呼ぶこととするが、平安時代を代表する漢字字書は『篆隸万象名義』『新撰字鏡』『類聚名義抄』の三書である。これらの漢字字書は、日本語史研究の重要資料であって、語彙(訓読語)、音韻(字音、アクセント)、漢字字体(異体字)等の研究で利用されてきた。しかし、それらの全文の活字翻刻の公刊はなく、一般の研究者が使いこなすには難易度が高い。活字翻刻が未公刊なのは、難字・略字・行草書等を交えて解読の困難が大きいためであるが、日本の古辞書が参考にした中国古辞書のデータベース化が不十分であったことも関係している。

研究代表者は、1990 年代から古辞書のデータベース化を目指して、Unicode 等の漢字情報処理に関する研究と、日本古辞書が土台とした中国古辞書『原本玉篇』の節略本である『篆隸万象名義』のデータベース化に関する研究とに取り組み、『篆隸万象名義』全文テキスト入力を完成させた。この長い準備段階を経て、『新撰字鏡』と『類聚名義抄』という平安時代を代表する古辞書のデータベース化を可能とする段階に到達した。

本研究が直接の対象としない意義分類体の辞書『倭名類聚抄』(10 世紀初、源順撰)と、いろは順配列の国語辞書『色葉字類抄』(12 世紀、橘忠兼撰)は、人間文化研究機構共同プロジェクト「表記情報と書誌形態情報を加えた日本語歴史コーパスの精緻化」(代表: 国立国語研究所・高田智和)との連携をはかる過程で検討を加え、本研究をその準備作業として位置づけた。

2. 研究の目的

(1) 対象とする平安時代漢字字書

データベース化を行う平安時代漢字字書は、『篆隸万象名義』『新撰字鏡』『類聚名義抄』の 3 点とする。『原本玉篇』の節略本である『篆隸万象名義』(9 世紀初、掲出字約 16,000 字)は、その全巻を対象とし、『原本玉篇』(543 年)残巻(掲出字 2,086 字)と『宋本玉篇』(1013 年成、掲出字 22,804 字)も対象に含め、さらに『原本玉篇』逸文を加える。『新撰字鏡』(10 世紀初、掲出字約 24,000 字)は天治本の全巻を対象に抄録本系の享和本の本文を追加する。『篆隸万象名義』と『新撰字鏡』はこれまでの研究により蓄積したデータを点検・追加し、より汎用性の高いデータ形式に再構築する。『類聚名義抄』は、図書寮本と観智院本とを対象とする。図書寮本(12 世紀初、掲出字約 3,680 字)は、これまでに半分程度を構築済みであり、それを土台に全巻のデータ化を目指す。観智院本(12 世紀後半)は、掲出字数約 42,000 字(延べ)と膨大であり、掲出字と和訓のデータ化の完成を目指した。

(2) 平安時代漢字字書データベース構築の 3 段階

これらの平安時代漢字字書を対象に据えて、手写された本文を正確かつ効率的に解読して翻字本文を作成するための方法の提示、作成した翻刻本文を容易に共有するためのデータ・フォーマット設計、データベース連携による応用研究の実践、これら三つの計画を段階的に推進することによって研究基盤の確立をはかった。

3. 研究の方法

(1) 翻刻本文作成

原本字形の判読支援

先行文献の取舍選択によって漢字字書本文が形成・伝承されることから、原本字形の判読支援のために『宋本玉篇』『宋本広韻』データを利用する。『宋本玉篇』データは、研究代表者が独自に構築してきたものを整備・利用し、『宋本広韻』データは公開済みのものに、『切韻』残巻諸本のデータを追加した独自データを整備・利用する。

原本字形の Unicode 符号化

『篆隸万象名義』『新撰字鏡』『類聚名義抄』各字書掲出字の原本字形の再現に関しては、原本字形の Unicode 符号化のための IDS 情報を利用する手法を開発し、各種オープンアクセスのツール(CHISE IDS 検索、グリフウィキなど)を併用する。

原本画像の併用

また、原本画像の併用により Unicode テキスト化の不足を補うシステムを構築するが、その際、オープンアクセスのデータ（国会図書館近代デジタルライブラリーに登録の観智院本『類聚名義抄』複製など）との連携をとる。漢字研究の基本書である『宋本広韻』と『宋本玉篇』は、研究者の研究室所蔵の澤存堂本原本をデジタル化して利用する。

(2) データ・フォーマット設計

字書の本文構造

対象とする漢字字書の本文は、掲出字、音注（反切・類音注）、字体注、意義注、和訓等を基本構成要素としつつ、各種の補助的な注記（句読点、声点、ヲコト点、返点、転倒符、抹消符等）が施されている。こうした本文の基本構成要素の情報と補助的な注記の情報（注釈、アノテーション）とを適切に表示する方法とフォーマットを設計する。例えば、アクセント（声調）を示す声点は、L（平声 Low）、F（平声軽 Falling）、H（上声 High）、R（去声 Rising）、S（入声 Stop）のように略記する。

構造化データの設計と Web 公開方法の検討

字書の本文構造を適切にデジタル化するに際しては、人文学資料のマークアップのためのルールを定めている TEI (Text Encoding Initiative) のガイドラインを参照する。最新版 (TEI P5) に従って、XML 言語を用いて構造化データを設計する。あわせて Web 上でのデータ更新と公開方法を検討する。

加工容易なプレーンテキストの設計・評価

XML で構造化したデータは、さまざまな加工が容易であるが、人文学研究者にとって、マークアップしたタグ付きデータをエクセル等のソフトウェアを用いて処理可能なデータに変換するのは難易度が高い。そこで加工容易なプレーンテキストに変換する方法を検討する。補助的な注記（アノテーション）は最小限とし、Unicode 符号化は可能な限り基本漢字集合 (BMP) に包摂する処理を行って、その利用と評価を求める。

(3) データベース連携による応用研究

漢字字体・音韻・訓詁・和訓の研究

日本語学・中国語学・和漢比較文学の専門家がこれまで行ってきた文字学的研究、音韻学的研究、訓詁学的研究の成果を収集・整理する。

字書編纂史の研究

デジタルデータの利用によって関連文献の探索・照合を容易とする。『篆隸万象名義』『新撰字鏡』『類聚名義抄』を直接的または間接的に参照する 12 世紀以降成立の漢字字書（『世尊寺本字鏡』『字鏡抄無名字書』等）への影響と受容、『倭名類聚抄』（10 世紀初）、『色葉字類抄』（12 世紀）、「日本語歴史コーパス」との連携をはかる。

文字字形のデジタル記述に関する研究

古写本、古版本の異体字を処理可能とするために、文字字形のデジタル記述に関する基礎データの構築を行う。

4. 研究成果

(1) 成果の概要

本課題では、平安時代漢字字書の『篆隸万象名義』（高山寺本）、『新撰字鏡』（天治本）、『類聚名義抄』（図書寮本・観智院本）のデータベースをインターネットで公開した。これによって、ひろく人文学研究の研究基盤を確立することが出来た。そして、ひろく人文学研究の基礎資料を提供することになった。

『篆隸万象名義』（高山寺本）と『新撰字鏡』（天治本）は全文のテキストデータベースと掲出字画像データベースを完成し、インターフェイスを改良しながら、インターネットでの公開を行っている。『類聚名義抄』（図書寮本）は全文のテキストデータベースと掲出字画像データベースを完成しているが、その組織内容が複雑であることから試験的に部分的な公開を行っている。また、『類聚名義抄』（観智院本）も全文のテキストデータベースと掲出字画像データベースを完成しているが、カラー版の複製本が刊行されたばかりであり、順次公開の予定である。

(2) 翻刻本文作成

原本字形の判読支援

平安時代漢字字書の本文解読には中国で編纂された字書『宋本玉篇』、韻書『宋本広韻』との対象が不可欠であり、『切韻』残巻諸本の参照も望ましい。研究代表者の池田が構築・公開した『宋本玉篇』のデータを整備した。研究分担者の鈴木慎吾は、『広韻』『切韻』を中核とし、『宋本玉篇』をも検索できる「篇韻データベース」を構築・公開した。

原本字形の Unicode 符号化

『篆隸万象名義』(高山寺本)、『新撰字鏡』(天治本)、『類聚名義抄』(図書寮本・観智院本)の掲出字の原本字形の再現に関しては、Unicode を用いたが、その処理状況は、表のとおりである。表の中で IDS としたのは、漢字構成記述文字列 (Ideographic Description Sequence) で処理したものである。たとえば、「語」を「𠄎言吾」と表現するものである。

表 HDIC データベース処理状況のまとめ (池田 2018)

漢字字書	Unicode	IDS	その他	合計
篆隸万象名義 高山寺本	15,872 (99.2%)	80 (0.5%)	48 (0.3%)	16,001 (100%)
新撰字鏡 天治本	21,408 (89.2%)	1512 (6.3%)	1080 (4.5%)	24,000 (100%)
類聚名義抄 図書寮本	7,036 (99.5%)	25 (0.4%)	10 (0.1%)	7,071 (100%)
類聚名義抄 観智院本	34,213 (80.8%)	7,817 (18.5%)	271 (0.7%)	42,331 (100%)

原本画像の併用

翻刻本文の作成に際しては、FileMaker を利用して効率的に本文入力と整備を進めた。インターネット公開には、FileMaker ではなく、独自のインターフェイスと検索システムを持つ HDIC Viewer を開発した。開発には研究協力者の劉冠偉の尽力が大きかった。次の図は、天治本『新撰字鏡』全文テキストデータベースで「學」を検索した結果の画面である。

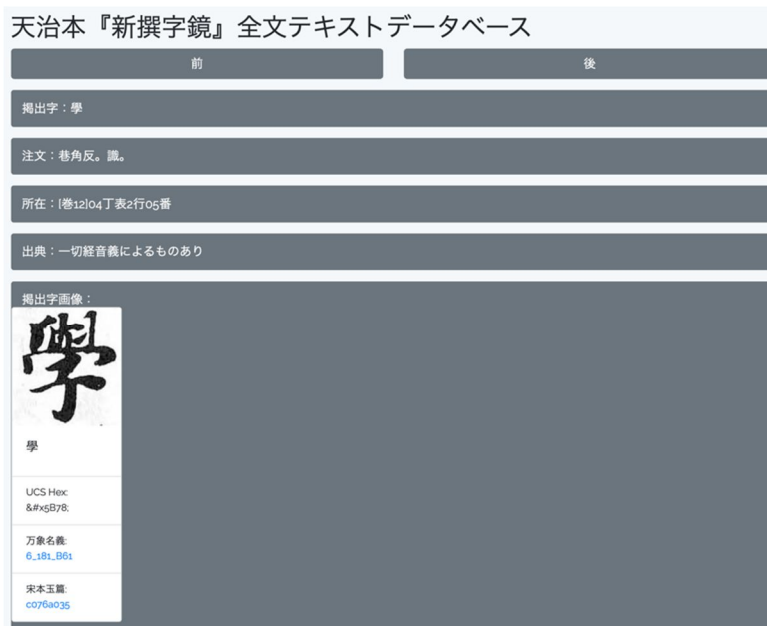


図 天治本『新撰字鏡』全文テキストデータベースで「學」を検索した結果
(<https://hdic2.let.hokudai.ac.jp/tsj2/s1204a205>)

(3) データ・フォーマット設計

字書の本文構造

『篆隸万象名義』と『新撰字鏡』はその本文構造が比較的単純であるが、『類聚名義抄』(図書寮本・観智院本)は、漢字と片仮名、さらに各種符号が混在して複雑である。本文構造を踏まえたデータベース構築の方法について、『類聚名義抄』(図書寮本)は研究協力者の申雄哲が主に担当し、それを踏まえた翻字と注解を作成し、申(2017)として公表した。『類聚名義抄』(観智院本)は研究代表者が担当して、池田他(2020)にその方法の概要をまとめた。

構造化データの設計と Web 公開方法の検討

IIIF は研究分担者の永崎研宣が多様な媒体で積極的に情報提供を行い、TEI は研究協力者の岡田一祐・李媛等が古辞書に即した分析を行った。研究分担者の鈴木慎吾は、「篇韻データベース」で実装を行い、IIIF の利用を進めた。研究代表者は、研究協力者の劉冠偉と協力してマルチデバイス対応の検索システムを構築した (HDIC Viewer、上記図参照)。

加工容易なプレーンテキストの設計・評価

『篆隸万象名義』全文テキストデータベースは2016年に、『新撰字鏡』全文テキストデータベースは2017年に公開した。公開はTSV形式により、GitHubで行った。次のURLを参照。

<https://github.com/shikedada/HDIC>

『類聚名義抄』も同様のTSV形式での公開を予定しているが、内容が複雑なことがあり、現時点では内部データにとどまっている。

(4) データベース連携による応用研究

漢字字体・音韻・訓詁・和訓の研究

漢字字体に関しては、研究分担者の齋木正直と研究協力者の賈智に成果があり、音韻に関しては研究分担者の鈴木慎吾と連携研究者の澤田達也に成果があった。訓詁・和訓に関しては、連携研究者の小助川貞次、河野貴美子等に成果があった。詳細は5. 主な発表論文等を参照されたい。

字書編纂史の研究

顕著な成果としては研究分担者の大槻信による観智院本『類聚名義抄』カラー版の解題が出た(大槻2018)。その他に京大本『無名字書』の紹介(大槻・森下2016)もあった。研究代表者の池田も『篆隸万象名義』『新撰字鏡』『類聚名義抄』に関する研究を発表した。連携研究者では藤本灯に『色葉字類抄』を中心とする研究があった。詳細は5. 主な発表論文等を参照されたい。

文字字形のデジタル記述に関する研究

文字字形のデジタル記述に関する基礎データの構築を行う。研究代表者と研究協力者の李媛は、『新撰字鏡』においてUnicodeで処理できない掲出字について分類整理し、UCS符号化提案するための基礎資料を作成した(李・池田2019)。研究分担者の永崎と連携研究者の高田智和がUCS符号化を審議する国際委員会のメンバーであることから、その具体的提案方を検討した。研究分担者の鈴木は「篇韻データベース」構築に際して、GlyphWiki利用による原文字形の再現を成し遂げた。

<http://suzukish.s252.xrea.com/search/qieyun/index.php>

(5) 研究集会と国際シンポジウムの開催

国内学会および国際学会で積極的に研究成果を発表した。その詳細は5. 主な発表論文等に掲載したリストのとおりである。また、初年度と2年度には、北海道大学を会場として、人文情報学に関するセミナーと研究集会を開催して、IIIFの最新情報、各種のデータベースの利用法、日中の古辞書の研究等について検討した。さらに3年度には、国立国語研究所において国際シンポジウム「古辞書研究の射程」を開催した。この国際シンポジウムの開催に際しては連携研究者の高田智和の協力を得た。

(6) 研究計画最終年度前年度応募

この研究課題の進捗は順調であり、3年度に当初の目的を達成したので、「研究計画最終年度前年度応募」を行い、科学研究費基盤研究A「平安時代漢字字書総合データベースの機能高度化と類聚名義抄注釈の作成」(課題番号19H00526)として採択された。そのため、この成果報告書の4.研究成果と5.主な研究論文等には2019年度内に刊行または採択が確定した論文を記載している。

引用文献

大槻信, 解題, 類聚名義抄観智院本(新天理図書館善本叢書第9-11巻), 八木書店, 2018.

大槻信・森下真衣, 京都大学蔵『無名字書』略解題並びに影印, 訓点語と訓点資料137, pp.67-113, 2016.

池田証壽, 平安時代漢字字書総合データベースの構築及其公開, 東亞文獻研究21, pp.263-273, 韓國交通大學校東亞研究所・中國上海師範大學人文與傳播學院, 2018.

池田証壽・劉冠偉・鄭門鎬・張馨方・李媛, 観智院本『類聚名義抄』全文テキストデータベース構築の方法—その構築方法と掲出項目等の計量—, 訓点語と訓点資料144, pp.42-66, 訓点語学会, 2020.

申雄哲, 函書寮本『類聚名義抄』の翻字と校注(足部), 訓点語と訓点資料138, pp.46-71, 訓点語学会, 2017

李媛・池田証壽, 公開した古辞書テキストデータから見たUCS符号化提案-天治本新撰字鏡掲出字を例に-, 東洋学へのコンピュータ利用セミナー30, 京都大学人文科学研究所附属東アジア人文情報学研究センター, pp.139-229. 2019.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計46件（うち査読付論文 24件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 18件）

1. 著者名 池田証壽・劉冠偉・鄭門鎬・張馨方・李媛	4. 巻 144
2. 論文標題 観智院本『類聚名義抄』全文テキストデータベース構築の方法 その構築方法と掲出項目等の計量	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 訓点語と訓点資料	6. 最初と最後の頁 42-66
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池田証壽	4. 巻 21
2. 論文標題 平安時代漢字字書綜合データベースの構築及其公開	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 東亞文獻研究(韓國交通大學校東亞研究所・中國上海師範大學人文與傳播學院)	6. 最初と最後の頁 263-273
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Naoki Kokaze, Kiyonori Nagasaki, Makoto Goto, Yuta Hashimoto, A. Charles Muller and Masahiro Shimoda,	4. 巻 12
2. 論文標題 Toward a Model for Marking up Non-SI Units and Measurements	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of the Text Encoding Initiative	6. 最初と最後の頁 1-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.4000/jtei.1996	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 小助川貞次	4. 巻 第9巻第6号
2. 論文標題 漢文文献に記された書込の意義	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ハノイ外国語大学紀要	6. 最初と最後の頁 138-150
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大槻信	4. 巻 89(3)
2. 論文標題 『新撰字鏡』の編纂過程	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国語国文	6. 最初と最後の頁 45-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木慎吾	4. 巻 265
2. 論文標題 中古漢語の韻母体系について：唇音性の有無による喉音韻尾二分説を起点に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 中国語学	6. 最初と最後の頁 62-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木慎吾	4. 巻 -
2. 論文標題 『切韻』諸本テキスト一覧システムの構築について	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 人文科学とコンピュータシンポジウム(じんもんこん)2018論文集	6. 最初と最後の頁 117-122
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 賈智	4. 巻 142
2. 論文標題 『新撰字鏡』における『干祿字書』の利用について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 訓点語と訓点資料	6. 最初と最後の頁 18-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 河野貴美子	4. 巻 242
2. 論文標題 平安期における中国古典籍の摂取と利用 空海撰『秘蔵宝鑰』および藤原敦光撰『秘蔵宝鑰鈔』を例に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 "檀本淳一・吉永匡史・河内春人編『アジア遊学242 中国學術の東アジア伝播と古代日本』勉誠出版 "	6. 最初と最後の頁 214-227
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河野貴美子	4. 巻 16
2. 論文標題 従佚存書看中国學術文化的伝播以及漢字漢文文化圈的形成意義	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国際漢学研究通訊	6. 最初と最後の頁 86-108
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大槻信	4. 巻 41
2. 論文標題 日本 古辭典 雜考 (日本古辭書雜考 古辭書と日本語)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 口訣研究	6. 最初と最後の頁 47-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 李媛	4. 巻 142
2. 論文標題 高山寺本『篆隸万象名義』の原本調査報告 - 文字訂正を中心に -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 訓点語と訓点資料	6. 最初と最後の頁 1-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 李媛・池田証壽	4. 巻 -
2. 論文標題 公開した古辞書テキストデータからみたUCS符号化提案 - 天治本新撰字鏡掲出字を例に -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東洋学へのコンピュータ利用第30回研究セミナー予稿集	6. 最初と最後の頁 139-229
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 劉冠偉・李媛・池田証壽	4. 巻 -
2. 論文標題 スマホで古辞書II 平安時代古辞書の総合的インタフェースについて	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 人文科学とコンピュータシンポジウム(じんもんこん)2018論文集	6. 最初と最後の頁 83-88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 李媛	4. 巻 -
2. 論文標題 中日古辞書の近世寫本及其價值 - 以《篆隸萬象名義》為中心 -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 第二十九屆中國文字學國際學術研討會論文集	6. 最初と最後の頁 61-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 李媛	4. 巻 2018-CH-117(5)
2. 論文標題 TEI P5 Dictionariesモジュールに基づく古辞書の構造化記述の試み - 篆隸万象名義を中心に -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 情報処理学会研究報告人文科学とコンピュータ	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 永崎研宣, 下田正弘	4. 巻 -
2. 論文標題 オープン化が拓くデジタルアーカイブの高度利活用: IIIF Manifests for Buddhist Studiesの運用を通じて	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 人文科学とコンピュータシンポジウム(じんもんこん)2018論文集	6. 最初と最後の頁 389-394
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 池田証壽・李媛	4. 巻 20
2. 論文標題 《篆隸萬象名義》“(こざとへんに人、隊の簡体字)”字存疑 書寫用紙與文字修訂	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 東亞文獻研究	6. 最初と最後の頁 19-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池田証壽・李媛	4. 巻 -
2. 論文標題 天治本新撰字鏡全文テキスト構築の方法と課題	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 人文科学とコンピュータシンポジウム(じんもんこん)2017論文集	6. 最初と最後の頁 37-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 劉冠偉・李媛・鄭門鎬・張馨方・池田証壽	4. 巻 -
2. 論文標題 部首分類体日本古辞書の項目構造の多様性に対応したマークアップ・ツールの開発	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 人文科学とコンピュータシンポジウム(じんもんこん)2017論文集	6. 最初と最後の頁 97-102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 劉冠偉・李媛・池田証壽	4. 巻 2017-CH-114(6)
2. 論文標題 多漢字文献の検索効率向上とマルチデバイス対応の試み	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 情報処理学会研究報告人文科学とコンピュータ	6. 最初と最後の頁 1-4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 池田証壽	4. 巻 139
2. 論文標題 杜延業『群書新定字様』再考	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 訓点語と訓点資料	6. 最初と最後の頁 1-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河野貴美子	4. 巻 -
2. 論文標題 奈良(南都)仏教における人的交流・文化接触	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本古代交流史入門	6. 最初と最後の頁 174-190
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河野貴美子	4. 巻 208
2. 論文標題 敦煌出土「新集文詞九經抄」と古代日本の金言成句集	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 アジア遊学208 ひと・もの・知の往来 シルクロードの文化学	6. 最初と最後の頁 27-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 李媛	4. 巻 -
2. 論文標題 古辞書翻刻階層モデルによる篆隸万象名義掲出字の記述	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 東洋学へのコンピュータ利用第29回研究セミナー予稿集	6. 最初と最後の頁 3-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ikeda Shoju and Li Yuan	4. 巻 13
2. 論文標題 Building a General Database System of Chinese Characters Dictionaries in early Japan: Tenreibanshomeigi in HDIC Project	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of the Graduate School of Letters Hokkaido University	6. 最初と最後の頁 49-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14943/jgs1.13.49	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 池田証壽	4. 巻 154
2. 論文標題 杜延業《群書新定字様》再考	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 北海道大学文学研究科紀要	6. 最初と最後の頁 1-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14943/bgs1.154.11	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 池田証壽	4. 巻 -
2. 論文標題 篆隸万象名義全文テキストデータベース構築からHDICへの展開	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 平成二十九年度高山寺典籍文書総合調査団研究報告論集	6. 最初と最後の頁 34-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤本灯	4. 巻 37
2. 論文標題 『色葉字類抄』 「雑物部」の研究	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国語語彙史の研究	6. 最初と最後の頁 183-202
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 李媛・池田証壽	4. 巻 -
2. 論文標題 篆隸万象名義の全文テキストと公開システムについて	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 人文科学とコンピュータシンポジウム(じんもんこん)2016論文集	6. 最初と最後の頁 95-102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 池田証壽	4. 巻 150
2. 論文標題 漢字字体史の資料と方法 初唐の宮廷写経と日本の古辞書	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 北海道大学文学研究科紀要	6. 最初と最後の頁 201-236
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14943/bgs1.150.1201	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大槻信・森下真衣	4. 巻 137
2. 論文標題 京都大学蔵『無名字書』略解題並びに影印	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 訓点語と訓点資料	6. 最初と最後の頁 67-113
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河野貴美子	4. 巻 199
2. 論文標題 幼学書・注釈書からみる古代日本の「語」「文」の形成 漢語と和語の衝突と融合	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 アジア遊学 衝突と融合の東アジア文化史	6. 最初と最後の頁 92-107
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤本灯	4. 巻 11
2. 論文標題 色葉字類抄データベースの構築と展望	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 国立国語研究所論集	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15084/00000837	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 永崎研宣	4. 巻 104
2. 論文標題 大学図書館とデジタル人文学 (小特集 デジタルアーカイブ)	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 大学図書館研究	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ikeda Shoju	4. 巻 No.LXI 2016
2. 論文標題 The HDIC Database Project	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Transactions of the International Conference of Eastern Studies	6. 最初と最後の頁 78-79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池田証壽	4. 巻 38
2. 論文標題 『新撰字鏡』本文解読上の諸問題－HDICの紹介とその活用－	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 口訣研究	6. 最初と最後の頁 39-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.17001/kugyol.2017..38.003	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高橋大希・劉冠偉・池田証壽	4. 巻 -
2. 論文標題 夢梅本『倭玉篇』全文テキストデータベースの構築	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 言語資源活用ワークショップ2016発表論文集	6. 最初と最後の頁 49-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 劉冠偉・李媛・池田証壽	4. 巻 -
2. 論文標題 スマホで古辞書 『篆隸万象名義』のIDS検索を例に	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 言語資源活用ワークショップ2016発表論文集	6. 最初と最後の頁 140-147
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池田証壽	4. 巻 -
2. 論文標題 高山寺蔵『顔野王玉篇水部之缺』(影印)	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 平成二十八年度高山寺典籍文書総合調査団研究報告論集	6. 最初と最後の頁 3-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池田証壽	4. 巻 -
2. 論文標題 仏典首義を通して見た『新撰字鏡』と『類聚名義抄』	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 平成二十八年度高山寺典籍文書総合調査団研究報告論集	6. 最初と最後の頁 37-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 李媛	4. 巻 -
2. 論文標題 篆隸万象名義の掲出字の文字同定について	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 東洋学へのコンピュータ利用第28回研究セミナー予稿集	6. 最初と最後の頁 347-366
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 申雄哲	4. 巻 138
2. 論文標題 図書寮本『類聚名義抄』の翻字と注解(足部)	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 訓点語と訓点資料	6. 最初と最後の頁 46-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 永崎研宣	4. 巻 2017-CH-113(6)
2. 論文標題 人文系オープンデータとIIIFがもたらす意義・可能性・課題	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 情報処理学会研究報告人文科学とコンピュータ	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 永崎研宣	4. 巻 67(2)
2. 論文標題 デジタル文化資料の国際化に向けて：IIIFとTEI（特集＝デジタルアーカイブを支える技術）	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 情報の科学と技術	6. 最初と最後の頁 61-66
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18919/jkg.67.2_61	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 永崎研宣	4. 巻 65(2)
2. 論文標題 インド学仏教学を未来につなぐために 研究資料ネットワークの再形成に向けて	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 印度学仏教学研究	6. 最初と最後の頁 1022-1015
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.4259/ibk.65.2_1022	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計104件（うち招待講演 33件 / うち国際学会 49件）

1. 発表者名 劉冠偉・鄭門鎬・池田証壽
2. 発表標題 観智院本『類聚名義抄』の熟語項目と異体項目
3. 学会等名 第118回訓点語学会研究発表会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 池田証壽
2. 発表標題 平安時代漢字字書綜合データベースの紹介 以《篆隸萬象名義》和《新撰字鏡》為中心
3. 学会等名 上海交通大學海外漢字文化研究中心第二屆國際學術研討會“東亞文化圈古辭書研究”（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 池田証壽
2. 発表標題 古辞書研究の未来 開催の趣旨説明を兼ねて
3. 学会等名 国際シンポジウム「古辞書研究の射程」(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 池田証壽・劉冠偉・鄭門鎬・張馨方
2. 発表標題 観智院本『類聚名義抄』全文テキストデータベース構築の方法
3. 学会等名 日本語学会2018年秋季大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 劉冠偉・張馨方・池田証壽
2. 発表標題 観智院本『類聚名義抄』の基本項目と拡張項目
3. 学会等名 第119回訓点語学会研究発表会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 池田証壽
2. 発表標題 日本古辞書研究の現状と課題
3. 学会等名 首届跨文化漢字國際研討會“東亞碑刻漢字及文獻研究”(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 李媛・劉冠偉・池田証壽
2. 発表標題 《新撰字鏡》數據庫的構建及其公開
3. 学会等名 第十二屆漢文佛典語言學國際學術研討會（國際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 池田証壽
2. 発表標題 高山寺における辞書類の集積とその利用 『孔雀経单字』と『干禄字書』
3. 学会等名 日本漢字学会2018年度第1回研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 劉冠偉・李媛・池田証壽
2. 発表標題 スマホで古辞書II 平安時代古辞書の総合的インタフェースについて
3. 学会等名 人文科学とコンピュータシンポジウム2018
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 李媛・池田証壽
2. 発表標題 公開した古辞書テキストデータからみたUCS符号化提案 - 天治本新撰字鏡掲出字を例に -
3. 学会等名 東洋学へのコンピュータ利用第30回研究セミナー（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 劉冠偉・池田証壽
2. 発表標題 日本語歴史コーパス (CHJ) と平安時代漢字字書総合データベース (HDIC) との連携 観智院本類聚名義抄を例に
3. 学会等名 「通時コーパス」シンポジウム2019
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小助川貞次
2. 発表標題 漢字文化圏における正史類の古写本について
3. 学会等名 国際シンポジウム「古辞書研究の射程」(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 賈智
2. 発表標題 敦煌文書の文字学価値
3. 学会等名 国際シンポジウム「古辞書研究の射程」(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 賈智
2. 発表標題 《干祿字書》在日本古籍中的傳承與發展
3. 学会等名 首屆跨文化漢字國際研討會：東亞碑刻漢字及文獻研究(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 賈智
2. 発表標題 關於日写本《玄心音義》中的漢字字体 漢字字体規範資料庫應用事例
3. 学会等名 第十二屆漢文佛典語言學國際學術研討會（國際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 河野貴美子
2. 発表標題 日本古代の仏典注釈書を通してみる中国古辞書の利用とその意義
3. 学会等名 国際シンポジウム「古辞書研究の射程」（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 河野貴美子
2. 発表標題 日本の古典籍および学術文化史から考える中国学の方法論
3. 学会等名 第10回日中学者中国古代史論壇 学際化する中国学 中国学発展の方法論の探求（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 澤田達也
2. 発表標題 唐末五代《玉篇》淺析——以《隨函錄》、《龍龕手鑑》所引佚文為主要對象
3. 学会等名 中國音韻學研究第二十屆國際學術研討會（國際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大槻信
2. 発表標題 平安時代の辞書 古辞書と日本語
3. 学会等名 漢検漢字文化研究所 連続講座「中国と日本の字書と辞書」(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大槻信
2. 発表標題 観智院本類聚名義抄小考 凡例・修理・九行本
3. 学会等名 国際シンポジウム「古辞書研究の射程」(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 斎木正直
2. 発表標題 初唐の漢字字体の比較検討
3. 学会等名 国際シンポジウム「古辞書研究の射程」(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 岡田一祐
2. 発表標題 古辞書項目のネットワーク分析
3. 学会等名 国際シンポジウム「古辞書研究の射程」(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鈴木慎吾
2. 発表標題 北京語韻母体系の再考
3. 学会等名 日本中国語学会第68回全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 李媛
2. 発表標題 『篆隸万象名義』示部の本文研究
3. 学会等名 日本漢字学会第1回研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 李媛
2. 発表標題 埋字與脱字 - 關於篆隸萬象名義所收字數的問題 -
3. 学会等名 首届跨文化漢字國際研討會：東亞碑刻漢字及文献研究（國際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 李媛・藤本灯
2. 発表標題 平安時代の字書・辞書間における義注・訓注の重なりについて
3. 学会等名 日本語学会2018年秋季大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Li Yuan
2. 発表標題 An Attempt of Structural Description of the Early Chinese Character Dictionaries Based on Dictionaries Module in TEI P5
3. 学会等名 TEI2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Li Yuan
2. 発表標題 Repetition Issues in Manuscripts of Radical System Chinese Character Dictionaries: A Study of Tenreibanshomeigi
3. 学会等名 10th International Conference of the European Association of Chinese Linguistics (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 李媛
2. 発表標題 古辞書における文字訂正の問題 - 篆隸万象名義の原本調査から -
3. 学会等名 国際シンポジウム「古辞書研究の射程」(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 李媛
2. 発表標題 中日古辞書の近世寫本及其價值 - 以《篆隸萬象名義》為中心
3. 学会等名 第29屆中國文字學國際學術研討會
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 李媛
2. 発表標題 TEI P5 Dictionaries モジュールに基づく古辞書の構造化記述の試み - 篆隸万象名義を中心に -
3. 学会等名 第117回人文科学とコンピュータ研究発表会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 永崎研宣
2. 発表標題 デジタルアーカイブにおける研究基盤の提供と読解の支援 SAT大蔵経DBにおけるサービスの現在と今後
3. 学会等名 情報知識学会創立30周年 第26回(2018年度)年次大会(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kiyonori Nagasaki
2. 発表標題 Interoperable Digital Images for DH via IIIF, including Buddhist and other materials
3. 学会等名 Han Nom Workshop In Vietnam(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 永崎研宣
2. 発表標題 文化資源学がデジタルに期待し得ること: SAT大蔵経データベース2018版を事例として
3. 学会等名 文化資源学会展望プロジェクト「文化資源の現在」第7回研究会(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kiyonori Nagasaki
2. 発表標題 SAT Database : An Attempt to Achieve an Ecosystem for Buddhist Studies in the Digital Era
3. 学会等名 Special Panel: "The Future of Tripitaka", in 第二屆徑山禪宗祖庭文化論壇(招待講演)(國際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 永崎研宣
2. 発表標題 文字情報データベースにおける IIIF 活用の可能性と課題
3. 学会等名 シンポジウム「文字情報データベースの保存と継承」(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kiyonori Nagasaki
2. 発表標題 Possibilities of Collaborative Development for IDP via IIIF
3. 学会等名 IDP Partners Workshop (招待講演)(國際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 永崎研宣
2. 発表標題 大蔵経デジタル化から考える文献研究の未来
3. 学会等名 第31回斯道文庫講演会(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 永崎研宣
2. 発表標題 デジタル時代を迎える人文学が直面する課題
3. 学会等名 Galeシンポジウム2018「デジタル人文学への誘い」(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 永崎研宣
2. 発表標題 国際的なWeb画像の相互運用の枠組みIIIF
3. 学会等名 情報発信の新たな展開に向けて～デジタルアーカイブの構築とIIIF～(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 永崎研宣
2. 発表標題 仏教の智慧を開く - デジタルアーカイブの実際 -
3. 学会等名 公開講座「仏教の智慧を開く - 浄土宗大本山増上寺所蔵宋版大蔵経デジタルアーカイブ化 - 」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kiyonori Nagasaki
2. 発表標題 Toward a Productive Future under the New Copyright Law in Japan
3. 学会等名 North American Coordinating Council on Japanese Library Resources (NCC) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤本灯
2. 発表標題 国語辞書系古辞書データベースの展開 字類抄における音訓表記の検討を中心として
3. 学会等名 国際シンポジウム 「古辞書研究の射程」(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藤本灯
2. 発表標題 古辞書の意義分類と古記録 『色葉字類抄』と『明月記』を例として
3. 学会等名 第118回訓点語学会研究発表会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大槻信
2. 発表標題 日本古辞書雑考 古辞書と日本語
3. 学会等名 第53回口訣学会研究発表会(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 池田証壽・李媛
2. 発表標題 天治本新撰字鏡全文テキスト構築の方法と課題
3. 学会等名 人文科学とコンピュータシンポジウム2017
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 劉冠偉・李媛・鄭門鎬・張馨方・池田証壽
2. 発表標題 部首分類体日本古辞書の項目構造の多様性に対応したマークアップ・ツールの開発
3. 学会等名 人文科学とコンピュータシンポジウム2017
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 李媛
2. 発表標題 高山寺本『篆隸万象名義』の原本調査報告 文字訂正を中心にー
3. 学会等名 第117回訓点語学会研究発表会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Li Yuan and Ikeda Shoju
2. 発表標題 Building a General Database System of Chinese Characters Dictionaries in Early Japan: Tenreibanshomeigi in HDIC Project
3. 学会等名 EAJS2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Li Yuan
2. 発表標題 From Ancient Manuscript Chinese Character Dictionary of TenreiBanshoMeigi to Deciphered Electronic Text
3. 学会等名 AsiaLex2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 李媛
2. 発表標題 楊守敬蒐集『篆隸万象名義』近世写本初探
3. 学会等名 日本語学会2017年度春季大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 澤田達也
2. 発表標題 『玉篇』佚文資料を用いた音韻研究の試み
3. 学会等名 公開シンポジウム漢デジ2017
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 池田証壽
2. 発表標題 杜延業『群書新定字様』再考
3. 学会等名 第116回訓点語学会研究発表会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 劉冠偉・李媛・池田証壽
2. 発表標題 多漢字文献の検索効率向上とマルチデバイス対応の試み
3. 学会等名 第114回人文科学とコンピュータ研究会発表会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 池田証壽・李媛
2. 発表標題 《篆隸萬象名義》“(こざとへんに人、隊の簡体字)”字存疑 書寫用紙與文字修訂
3. 学会等名 第四屆東亞文獻研究國際學術研討會(國際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 池田証壽
2. 発表標題 平安時代漢字字書綜合數據庫的構建及其公開
3. 学会等名 第四屆東亞文獻研究國際學術研討會(招待講演)(國際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 鈴木慎吾
2. 発表標題 『切韻』の韻序に関する試論 遠藤説、平山説を基礎として
3. 学会等名 公開シンポジウム漢デジ2017
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 鈴木慎吾
2. 発表標題 中古音韻尾の円唇・非円唇対立について
3. 学会等名 日本中国語学会第67回全国大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kiyonori Nagasaki
2. 発表標題 Attempts to Disseminate IIF in Japan
3. 学会等名 IIF Symposium (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kiyonori Nagasaki
2. 発表標題 Current situation of Digital Humanities in Japan
3. 学会等名 Digital Approaches in Japanese Studies (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 賈智
2. 発表標題 本文から見た上代仏典音義の撰述と背景 『新訳華嚴經音義私記』を中心に
3. 学会等名 第116回訓点語学会研究発表会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 賈智
2. 発表標題 『新撰字鏡』 『類聚名義抄』 字音総合データベースの構築
3. 学会等名 公開シンポジウム漢デジ2017
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 小助川貞次
2. 発表標題 關於越南國立圖書館所藏書經大全與五經節要的加點（ベトナム国立図書館所藏書經大全と五經節要の加點について）
3. 学会等名 東亞漢籍與越南漢喃古辭書國際學術研討會（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 小助川貞次
2. 発表標題 Issues in Dictionaries Recording Kuntan Glosses (訓点を集録する辞書の問題点)
3. 学会等名 Workshop on comparative glossing practices (ICHOLS 14) (國際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 小助川貞次
2. 発表標題 訓点の信憑性について
3. 学会等名 第117回訓点語学会研究発表会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 小助川貞次
2. 発表標題 漢文文献に記された書込の意義
3. 学会等名 国際シンポジウム「ベトナムにおける日本語教育と日本研究 - 人材育成のための連携可能性を巡って -」（國際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kazuhiro Okada
2. 発表標題 Hentaigana charts in Meiji Textbooks Revisited: An analysis of hentaigana charts
3. 学会等名 EAJS2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 岡田一祐
2. 発表標題 いろは仮名といまの平仮名: 近代における仮名の体系化
3. 学会等名 シンポジウム「変体仮名のこれまでとこれから」(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 河野貴美子
2. 発表標題 従佚存書立場所見の中国學術文化的伝播以及漢字漢文文化圏の形成意義
3. 学会等名 北京論壇2017 文明的和諧与共同繁荣 变化中的價值与秩序(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 河野貴美子
2. 発表標題 中日“嘉言”集考
3. 学会等名 東亜漢籍与越南漢喃古辞書国際學術研討会(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Akari Fujimoto, Sota Tanaka
2. 発表標題 The Validity of Using Iroha-Jiruisho to Interpret Ancient Japanese Diaries of the Male Nobility
3. 学会等名 EAJS2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 藤本灯, 韓一, 高田智和
2. 発表標題 古辞書の構造化記述の試み 和名類聚抄を例に
3. 学会等名 日本語学会2017年度秋季大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 申雄哲
2. 発表標題 『今昔物語集』の解読における古辞書の効用と限界
3. 学会等名 韓国日本語学会 第36回国際学術発表大会 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 高田智和・福山雅深・堤智昭・小助川貞次
2. 発表標題 資料画像公開・利用の国際化と高度化の取り組み
3. 学会等名 日本語学会2017年度春季大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 高田智和
2. 発表標題 『哲学字彙』掲出語に対する語彙素ID付けの試み
3. 学会等名 通時コーパス活用班合同研究集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 李媛
2. 発表標題 古辞書翻刻階層モデルによる篆隸万象名義掲出字の記述
3. 学会等名 東洋学へのコンピュータ利用第29回研究セミナー
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 永崎研宣
2. 発表標題 日本文学研究のためのIIIF
3. 学会等名 日本文学・国語学の学生のためのDigital Humanities勉強会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 永崎研宣
2. 発表標題 デジタル化文化資料共有の基盤としてのTEI
3. 学会等名 情報資源利用研究センター（IRC）設立20周年記念セミナー「人文情報学の現在」（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kazuhiro Okada
2. 発表標題 Japanese philology: The Database of Premodern Japanese Works and the “Wakan meien” Hiragana Grapheme Database
3. 学会等名 International Symposium “Digital Humanities and Databases” (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ikeda Shoju
2. 発表標題 The HDIC Database Project 平安時代漢字字書総合データベース
3. 学会等名 61st International Conference of Eastern Studies 第61回国際東方学会議 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 池田証壽
2. 発表標題 平安時代漢字字書総合データベースの展開
3. 学会等名 公開シンポジウム「漢デジ2016：平安時代漢字字書総合データベースによる研究基盤の確立」
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Ikeda Shoju
2. 発表標題 Problems in the decipherment of the text of Sinsenjikyo : Introducing HDIC and its uses 『新撰字鏡』本文解読上の諸問題 HDICの紹介とその活用
3. 学会等名 International conference for the 20th Anniversary of the Society for Kugyol Studies 韓国口訣学会国際会議「アジア諸民族の文字(二)」(招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 李媛・池田証壽
2. 発表標題 篆隸万象名義の全文テキストと公開システムについて
3. 学会等名 人文科学とコンピュータシンポジウム2016
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 小助川貞次
2. 発表標題 古訓「ウグモツ」について
3. 学会等名 第115回訓点語学会研究発表会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 高田智和
2. 発表標題 表記辞書とコーパス
3. 学会等名 NINJALセミナー「言語データと日本語研究」(国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 高田智和
2. 発表標題 東アジアの文字と文字コード
3. 学会等名 シンポジウム「漢字文化圏の100年+」
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 河野貴美子
2. 発表標題 中国古文献在日本的伝承
3. 学会等名 東北亜走廊研究院學術講座（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 藤本灯
2. 発表標題 『色葉字類抄』が示す消極的要素の意味するもの 本文に明示されない事項の解明に向けて
3. 学会等名 第112回国語語彙史研究会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 李媛
2. 発表標題 字体と字種との区別から見た篆隸万象名義の重出字
3. 学会等名 第114回訓点語学会研究発表会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Okada Kazuhiro
2. 発表標題 Reorganising a Japanese calligraphy dictionary into a grapheme database and beyond: The case of the Wakan Meien grapheme database
3. 学会等名 JADH (Japanese Association for Digital Humanities) 2016 (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 申雄哲
2. 発表標題 図書寮本類聚名義抄の本文解読とデータベース作成上の問題点
3. 学会等名 公開シンポジウム「漢デジ2016：平安時代漢字字書総合データベースによる研究基盤の確立」
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 申雄哲
2. 発表標題 図書寮本『類聚名義抄』の熟字項目について
3. 学会等名 第115回訓点語学会研究発表会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 澤田達也
2. 発表標題 唐代《玉篇》演變考　以《新譯華嚴經音義私記》為主要對象
3. 学会等名 中國音韻學國際高端學術論壇（國際学会）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 鈴木慎吾
2. 発表標題 『篇韻データベース』の構築について
3. 学会等名 公開シンポジウム「漢デジ2016：平安時代漢字字書総合データベースによる研究基盤の確立」
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 永崎研宣
2. 発表標題 デジタルヒューマニティーズと図書館
3. 学会等名 三田図書館・情報学会第167回月例会（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 劉冠偉・李媛・池田証壽
2. 発表標題 スマホで古辞書 『篆隸万象名義』のIDS検索を例に
3. 学会等名 言語資源活用ワークショップ2016
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 高橋大希・劉冠偉・池田証壽
2. 発表標題 夢梅本『倭玉篇』全文テキストデータベースの構築
3. 学会等名 言語資源活用ワークショップ2016
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 李媛
2. 発表標題 篆隸万象名義の掲出字の文字同定について
3. 学会等名 「東洋学へのコンピュータ利用」第28回研究セミナー（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 高田智和
2. 発表標題 古辞書類に基づく語彙データベースの検討
3. 学会等名 「通時コーパス」シンポジウム2017
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 永崎研宣
2. 発表標題 Webで画像を見ながら翻刻をするためのいくつかの試み
3. 学会等名 「東洋学へのコンピュータ利用」第28回研究セミナー（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 鈴木慎吾
2. 発表標題 中国の韻書
3. 学会等名 "第64回国際東方学会議（ICES）SYMPOSIUM II 中国中古期と日本の古辞書研究の現在"（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大槻信
2. 発表標題 中国辞書と日本辞書 『新撰字鏡』の編纂過程
3. 学会等名 "第64回国際東方学会議（ICES）SYMPOSIUM II 中国中古期と日本の古辞書研究の現在"（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 池田証壽
2. 発表標題 《類聚名義抄》資料庫の構建及其公開
3. 学会等名 第十三屆漢文佛典語言學國際學術研討會（國際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kiyonori Nagasaki
2. 発表標題 Recent Trends of Digital Resources for Japanese Studies
3. 学会等名 2019 EAJRS (European Association of Japanese Research Specialists) conference (國際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計14件

1. 著者名 池田証壽	4. 発行年 2018年
2. 出版社 日本漢字能力検定協会	5. 総ページ数 126(35-53)
3. 書名 漢字学ことはじめ(日本漢字学会編、「日本古辞書研究からの提言」を分担執筆)	

1. 著者名 大槻信	4. 発行年 2018年
2. 出版社 八木書店	5. 総ページ数 472
3. 書名 新天理図書館善本叢書 第9巻 類聚名義抄 観智院本1 仏(天理大学附属天理図書館編、シリーズ三巻の監修と解題を担当)	

1. 著者名 大槻信	4. 発行年 2018年
2. 出版社 八木書店	5. 総ページ数 448
3. 書名 新天理図書館善本叢書 第10巻 類聚名義抄 観智院本2 法(天理大学附属天理図書館編、シリーズ三巻の監修と解題を担当)	

1. 著者名 大槻信	4. 発行年 2018年
2. 出版社 八木書店	5. 総ページ数 472(1-32)
3. 書名 新天理図書館善本叢書 第11巻 類聚名義抄 観智院本3 僧(天理大学附属天理図書館編、シリーズ三巻の監修と解題を担当)	

1. 著者名 大槻信	4. 発行年 2018年
2. 出版社 東京堂	5. 総ページ数 1328(921-922, 1037-1039)
3. 書名 日本語学大辞典(日本語学会編、「本草和名」「和名抄」を分担執筆)	

1. 著者名 大槻信	4. 発行年 2019年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 272
3. 書名 平安時代辞書論考 辞書と材料	

1. 著者名 Kiyonori Nagasaki(共著)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 IGI Global	5. 総ページ数 310(71-90)
3. 書名 Digital Humanities and Scholarly Research Trends in the Asia-Pacific ("Contexts of Digital Humanities in Japan" を分担執筆)	

1. 著者名 大槻信・木田章義	4. 発行年 2017年
2. 出版社 八木書店	5. 総ページ数 316(283-294)
3. 書名 『熱田本日本書紀』第三冊(熱田神宮編、「熱田本『日本書紀』の訓点」を分担執筆)	

1. 著者名 小助川貞次	4. 発行年 2018年
2. 出版社 桂書房	5. 総ページ数 152(130-139)
3. 書名 『富山大学人文学部叢書1 人文知のカレイドスコープ』(富山大学人文学部編、「漢文訓読研究のコペルニクスの転回」を分担執筆)	

1. 著者名 池田証壽	4. 発行年 2016年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 1-12
3. 書名 国宝玉篇卷第二十七(国宝「玉篇卷第二十七 紙背 護摩科文六種」(京都・高山寺蔵)解説 を執筆)	

1. 著者名 池田証壽	4. 発行年 2016年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 440(360-376)
3. 書名 漢字字体史研究二 字体と漢字情報 (「平安時代漢字字書総合データベース構築の方法と課題 『類聚名義抄』を中心に 」を執筆)	

1. 著者名 齋木正直	4. 発行年 2016年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 440(83-92)
3. 書名 漢字字体史研究二 字体と漢字情報 (「初唐の標準字体の再検討」を執筆)	

1. 著者名 池田証壽	4. 発行年 2020年
2. 出版社 汲古書院	5. 総ページ数 527(79-98)
3. 書名 『高山寺経蔵の形成と伝承』(高山寺典籍文書総合調査団編、「高山寺の古辞書音義」を分担執筆)	

1. 著者名 永崎研宣	4. 発行年 2019年
2. 出版社 文学通信	5. 総ページ数 383(25-140)
3. 書名 『デジタル学術空間の作り方 仏教学から提起する次世代人文学のモデル』(下田正弘、永崎研宣編、全体の編集及びpp. 25-140を分担執筆)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

平安時代漢字字書研究
<https://hdic.jp>
 HDIC Database Project
<https://github.com/shikeda/HDIC>
 HDIC Viewer
<https://hdic2.let.hokudai.ac.jp>
 篇韻データベース（鈴木慎吾）
<http://suzukish.s252.xrea.com/search/>
 平安時代漢字字書研究
<http://hdic.jp>
 HDIC : Hanzhi Dictionaries in Early Japan
<https://github.com/shikeda/HDIC>
 平安時代漢字字書研究
<http://hdic.jp>
 Hanzhi Dictionaries in Early Japan : 平安時代漢字字書研究
<http://hdic.let.hokudai.ac.jp>
 HDIC
<https://github.com/shikeda/HDIC>
 篇韻データベース
<http://suzukish.s252.xrea.com/search/>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	大槻 信 (Otsuki Makoto) (60291994)	京都大学・文学研究科・教授 (14301)	
研究分担者	永崎 研宣 (Ngasaki Kiyonori) (30343429)	一般財団法人人文情報学研究所・人文情報学研究部門・主席 研究員 (82683)	
研究分担者	鈴木 慎吾 (Suzuki Shingo) (20513360)	大阪大学・言語文化研究科（言語社会専攻、日本語・日本文化専攻）・講師 (14401)	
研究分担者	斎木 正直 (Saiki Masanao) (30609037)	北海道大学・文学研究院・専門研究員 (10101)	
研究協力者	賈 智 (Jia Zhi)	中山大学（珠海）・中国語言文学系・副教授	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	申 雄哲 (Shin Woongchul)	慶星大学校・韓国漢字研究所・HK研究教授	
研究協力者	岡田 一祐 (Okada Kazuhiro) (80761220)	国文学研究資料館・古典籍共同研究事業センター・特任助教 (62608)	
研究協力者	李 媛 (Li Yuan) (90803388)	北海道大学・文学研究院・学術研究員 (10101)	
研究協力者	劉 冠偉 (Liu Guanwei)	北海道大学・文学研究科・博士課程 (10101)	
連携研究者	小助川 貞次 (Kosukegawa Teiji) (20201486)	富山大学・人文学部・教授 (13201)	
連携研究者	河野 貴美子 (Kono Kimiko) (20386569)	早稲田大学・文学学術院・教授 (32689)	
連携研究者	澤田 達也 (Sawada Tatsuya) (20647599)	京都産業大学・外国語学部・准教授 (34304)	
連携研究者	高田 智和 (Takada Tomokazu) (90415612)	大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所・理論・構造研究系・准教授 (62618)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
連携研究者	藤本 灯 (Fujimoto Akari) (20733017)	京都府立大学・文学部・講師 (24302)	